

# 令和4年度 研究のまとめ

学校名：尾道市立栗原中学校
学校規模： 13学級 377名 (R5. 2月末現在で記入)
研究教科・領域： 全教科

## 1 研究の概要

### (1) 研究テーマ・サブテーマ

思考力・判断力・表現力等の育成  
 ～「チーム栗原」で主体性と規範意識を育成する指導の工夫～

### (2) 研究のねらい

#### ① 研究のねらい

「課題発見・解決学習」を取り入れた単元開発や、授業の振り返り活動を充実させることを通して、生徒の主体的な学びを促進し、思考力・判断力・表現力等を育成する。

#### ② 研究テーマの定義(本校における「思考力・判断力・表現力等」とは)

本校における「思考力・判断力・表現力等」とは、各教科の目標達成のために生徒が自ら既習の知識・技能を用いて課題を解決する過程で活用する能力のことである。

#### ③ サブテーマの定義(本校における「主体性」とは)

本校における「主体性」とは、学習者が「課題発見・解決学習」など全ての学習活動に能動的に参加し、自らが主体となって基礎的な知識・技能を活用しながら自ら思考・判断し、言語等を使った表現をする学習活動である。

### (3) 研究反説

全教職員が、生徒全員が規律に則って能動的に授業に参加できる環境の中で、課題発見・解決学習に主体的に取り組ませ、振り返り活動を充実させれば、生徒の思考力・判断力・表現力等を向上させられるであろう。

### (4) 研究内容(研究の方向)

- ①思考力・判断力・表現力等の育成  
 主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」を取り入れた単元開発と実施  
 授業の振り返り活動の充実
- ②生徒の能動的な授業参加を通じた主体性の育成  
 めあてと振り返りを明確にし、達成感を持たせる授業改善  
 生徒の自己肯定感や意欲を育てる授業改善
- ③規範意識を育成する学習の基盤づくり  
 授業ルール等の学習規律の徹底と、統一された教室掲示など学習環境の整備

### (5) 検証の指標

- ①AiGROWによる「表現力」のコンピテンシー数値(1・2年生対象)
- ②生徒意識調査(主体的な学び、自己肯定感)
- ③生徒意識調査(学習規律等の規範意識)

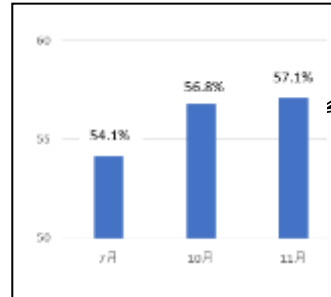
### (6) 到達目標

- ①AiGROWによる「表現力」のコンピテンシー数値(1・2年生対象)の上昇
- ②生徒意識調査において、「主体的な学び」・「自己肯定感」肯定的評価80%以上
- ③生徒意識調査において、「規範意識」肯定的評価90%以上

## 2 研究の成果と課題等

### (1) 検証結果

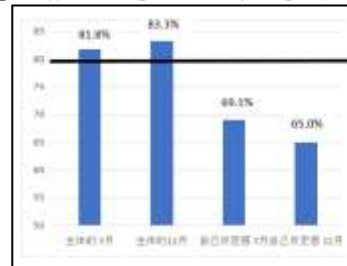
#### ①AiGROWの「表現力」のコンピテンシーの数値



AiGROWの数値では、表現力が徐々に上昇していることが分かる。

調査日時  
 令和4年7月、10月、11月  
 調査対象  
 1, 2年生

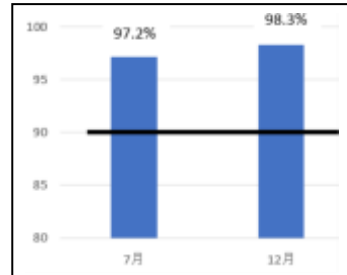
#### ②「主体的な学び」・「自己肯定感」に関するアンケートの肯定的回答



「主体的な学び」の数値は目標を達成した。「自己肯定感」は目標値に達しておらず、数値も低下した。特に2年生の数値が低かった。

調査日時  
 令和4年7月、12月  
 調査対象  
 全学年

#### ③規範意識に関するアンケートの肯定的回答



7月97.2%、12月98.3%と非常に高い数値であった。しかし、わずかながら「落ち着いて授業に取り組むことができていない」と感じている生徒もいるという実態がある。

調査日時  
 令和4年7月、12月  
 調査対象  
 全学年

### (2) 成果

- ①AiGROWの数値による表現力は向上した。
- ②生徒の主体的な学びの意識は上昇傾向にある。
- ③生徒の意識調査において、目標値を達成した。

### (3) 課題

- ①AiGROWの数値による表現力の平均値は向上したが、最小値・最大値・中央値等の分析も必要である。
- ②自己肯定感を持たせる授業づくりが十分でない。

### (4) 改善の方向性

- ①AiGROWの数値の分析力の向上と、学校全体で統一した表現力向上の方策の策定。
- ②ICTを活用した授業と、授業内で達成感を味わえる課題の設定。